

座談会

を迎えて

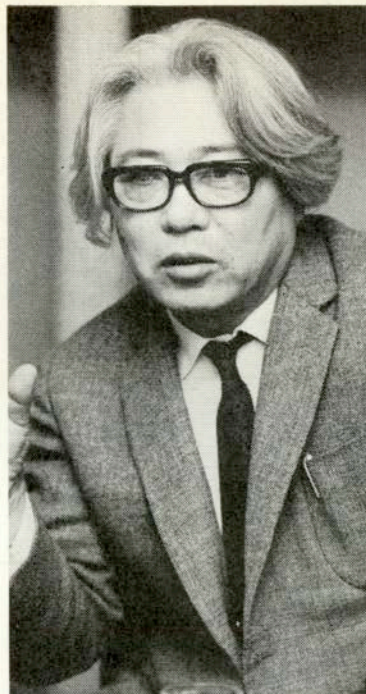
はどうか動くか

津 高 和 一

〈画家〉

小 島 輝 正

〈神戸大学教授〉



津 高 和 一 氏



小 島 輝 正 氏

赤尾 戦後という言葉が問題になる今日ですが、戦後の一つの大きなエポックをなす意味で、あらゆる方面、あらゆる分野で七十年代が意識されていると思うのです。

ここで、神戸の文化を捉える時、それぞれの分野での六十年代とは何であったか、どういう人を神戸は生み、また呼吸してきたかをお話していただいて、七十年代における神戸文化の位置づけをはかりたいと思っています。

一方、美術館などに見られる文化施設への姿勢も七十年代では非常に神戸では注目されるところですね。このあたりを軸に話をすずめていただきますようか。

★ローカリティ・タイプか

全国的視野のタイプか

陳 ぼくが乱歩賞を受賞したのが昭和三十五年ですが、あのころと比べると相対的に東京に近ずいた感じがしますね。これは新幹線の影響が大きいですよ。日帰りに東京へ行けるようになったということは、ある意味で東京の吸引力が強くなっている。

小島 それに対して神戸の吸引力ということでは田辺聖子ですかね。それに犬養道子。

赤尾 野口武彦もいますな。出て行った代表は岡部伊都子ですわ。

絵の方はどうですか。

津高 絵は出て行く方が多いよう

特集
70年代

神戸の文化



■出席者■

陳 舜 臣

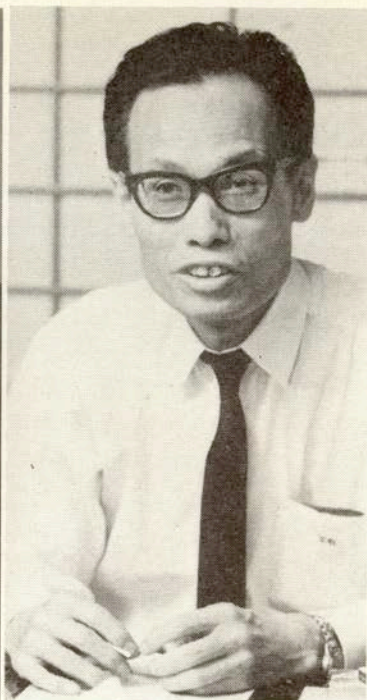
〈作家〉

赤 尾 兜 子

〈俳人〉



陳 舜臣氏



赤尾兜子氏

ですが、それほどの出入りはないですね。

小島 絵に関しては、神戸は輸出の方ではないですか。

赤尾 むしろ国外にまで輸出しますからな。

小島 神戸という一つの固定したイメージでなく、関西一円が東京に近ずいてきた期間といえるでしょうね。時間的な距離感は確かになくなってきました。

津高 絵の場合でも東京と地方という分けへだてがないですね。いわばみんなローカルですわ。もちろん、マスコミや商業ベースとなると東京にウエイトがおかれますが、それも東京が眼で他都市はその眼に容易に合わしていきよる。

赤尾 それは同感ですが、ただ神戸のローカリティがまだあるとすれば、それを大事にするというか神戸ローカリティに根を下ろす連中と、神戸に住んでいて文化活動をしているけれど、東京も含めて全国的視野で物を見ている連中との二通りのタイプが生まれてきたように思えるのです。

津高 そのとおりですね、現代美術展などをする時は明らかに東京も地方なんですわ。ぼくの場合でも行動美術を辞めて、一個の立場で美術展をしますと、中央から見るとひかれ者の小唄だろうが、本人のぼくとしては、やはり神戸に

根を下ろしているんだと、拠点はこのなんだという気持でし、そういう人間もいるわけです。またこれは神戸にできる県立美術館の話とも関連するのですが、東京都の美術館をつくる時、それが都民のための美術館でなく、美術団体のための美術館だという批判があがっているのです。貸画廊だという批判ですね。これも日本の縮図だと思ふのですよ。これを考えますと日本の文化人というのは、従来の体制にあるがままに流れてきている人と、それではだめなんだと自覚しはじめた人とに分かれつつある気がします。自覚した人はいまや地方にいても自然と東京が眼を向けてくれる。その点から神戸はどうかという、昨年の須磨離宮での野外彫刻展など神戸のスペースを生かしてよかったと思いますね。美術の場合は単独で自発的に動いているという姿勢がまだはつきりとしたかたちではできていないと思ふのです。

★詩が強い神戸の文学士嬢

小島 神戸は美術と詩においては伝統があります。神戸的なものが一つの核として自ずからありますからね。「文学聖域」が載せている同人雑誌名簿を見ていて感じるんだが、神戸では詩の方が強いですね。小説は陳さんが出てから非常に様子が変わってきたが、まだ

全体には弱いです。これから神戸に新しいものがでてくるとしたら半どん、自我、風群でしょうかね。ここ十年の間で小説の方でもまとまったものが出てきているので、案外このあたりから小説がどれぐらいのびていくかの可能性が面白いと思ふのです。というのは大阪の文学学校では最近いい新人を生みだしているのですよ。神戸のこの市民の学校も大阪文学学校の神戸版といったところだから、このあたりが中心になって動くとき待してもいいのではないですか。

それと神戸在住で活躍の著しいのは松原新一ですね。文芸協会をつくったり、シンポジウムを開いたりで東奔西走している。

陳 彼が神戸のレベルでいろいろと動いているのは立派でし、その点はオルガナイザーとして評価してよいと思ふのです。

赤尾 若いところでは野口武彦も街にでてきましたな。市民同友会の講演にでたりしてますよ。

小島 彼はいつまで神戸におるかちょっと怪しいところがありましてね(笑) 流れ者というのは最初

赤尾 なるほど、流れ者はどこも珍らしいわけですね(笑)

小島 文学ではバイキングが神戸を本家として頑張っているのは立派ですね。

★ミクロコスモスとしての神戸

赤尾 詩と美術が神戸文化の先達であることは事実ですね。俳句、短歌となると、これは神戸という風土と結びつけるのがなかなか難かしい。日本のどの地域にも三十年以上という古い雑誌はあるのですね。ところがむしろ逆に、短歌、俳句の中で神戸らしい部分が少しでてきたというのは、この十年間では前衛俳句でしょうな。これは神戸で詩が強かったための刺激が俳句、短歌にきているのです。

津高 戦前、神戸詩人という雑誌がありましたね。あの中で当時学生だった長峰まさおが「ルナ」という、個人雑誌を出していたり、また小林武雄とか垂騎保などの竹中郁さんの線とは別にヤング・ゼネレーションの動きがありました。

「クラルテ」なり「火の鳥」のころを思うと、次の世代を担うという意気込みがあったようだが、そこには神戸の風土というものが詩の場合にあったようですね。詩には何か光のようなものがあるんだ小説や散文とちがって何かがそこから得られそうだ、という感じがあるのです。

赤尾 青春と神戸の開放的風土とがくっつくと、センスのある者は詩に走りますね。

津高 そうですね。そういうとこ

ろが自転してきて伝統をつくってきたともいえます。それが俳句ともなると、赤尾さんのような前衛俳句でなしに、もうあれは年寄りのするもんだ、というムードがどことなくある（笑）

小島 バイキングがね、作品は何でもよろしい、ただし俳句と短歌はいかんという（笑）これも神戸のモダニズムのあらわれですね。

赤尾 「文学聖域」でも俳句、短歌の同人雑誌は載せていない。ここらあたりにも根強い偏見が残っているようですね（笑）まだそういうものが神戸にはあるのですね**小島** そういう偏見があるからこそ、神戸に前衛俳句が出てきたのでしょうか（笑）

赤尾 稲垣足穂のような奇妙な異端者の精神は神戸にあっても不思議ではないですね。これも神戸の風土の一部ではないでしょうか。**津高** でも当時の稲垣足穂にしても、神戸にいるというのは案外知られてないし、神戸でそう仕事もしていないけれど、こういう異端者の精神を誘発するミクロコスモスとして神戸があるのかもしれないですね。

★文化全体のバランスを考えての

文化設備を

赤尾 文化に関しては、あまり施設とか設備は直接的には関係はないのですが、とにかくにも神戸

には器がない。そういう点を文化行政という面で見ると、この十年はいかがでしょうか。

陳 国際会館以後というと県民会館ぐらいですね。

小島 その県民会館も文化面での活用となるとまだまだ弱いです。よっぽど神戸大学の教授会ばかりですね（笑）

赤尾 教育文化に貢献しているのですね（笑）

津高 現在建設中なのが王子公園の南にできる県立美術館ですが、どうもこの点でのPRが絶対的に不足していますね。こういう県の文化行政が、何かそこそと隠れてやっている感じがして、何となくそれだけ庶民感覚とのズレが出そうです。

小島 役人のすることはどうもそういう傾向があるのですが、それでも神戸は面白いところです。先日、文化庁が各都市の文化行政の視察をするになりました、その一番乗りが神戸だったのです。われわれが文句をいう側なのですが、神戸では中央から役人が来てても一応スネルところをこちらが持っている。だから田舎に來ているようにいばることもできませんね。

神戸では文化を云々するけれど優秀な詩人や美術家がいるのに一向に世話してない、と一言いつてきたのですけれど、どうもわれわれ

にはあまり世話はしていただきたくない（笑）ただ演劇など明らかに劇場が問題ですからね。

津高 美術館をつくらう、というのでオリエンタルホテルで会場を持ったのですが、どうも県立美術館が決まって美術関係者が黙ってしまおうと、演劇人単独ではどうする力も持っていないのです。

赤尾 そうですね。美術館ができることは賛成ですけど、それを建設するだけ一生懸命活動して、できてしまえば終りというのでなく文化全体のバランスにおいてある施設ができるというかたちになっていないようですね。

小島 美術は神戸では強いですが美術館を先にして、次は図書館をたててもらう。集会所もあり、また審議委員会でも設けて必要なのは購読できるというシステムの図書館がほしいものです。

★神戸市民の自由精神の巧罪

赤尾 名古屋は神戸とくらべるとセンスはあまりよくない。ところが図書館活動および図書館の数はすごいのです。各区に一つあるのですね。市民と密接している。またある図書館で読みたい本がなかったら、別の図書館から翌日に車で運んでくるのですわ。これは名古屋が非常にいばっているのです。名古屋は非常に地元意識の強い街だから、いろいろなみかたも

あるでしょうが、神戸に関していうと、センスがよいという地元意識はわりきっている。センスを我慢するのでなく、神戸も何か誇るべきものを持たなければと思いましたよ。

津高 県立図書館のないのは兵庫県だけですよ。

小島 名古屋は非常に金儲けのうまいところですが、地元で還元する気があるのですね。名古屋大学の敷地などすごいものです。逆からいえば、神戸はお上の世話にならない市民気質があるのでしょうか。

赤尾 市民の自由精神ですね。

陳 その点はあまり物欲しくないですね。利用できる時は利用できる施設がある方がいいのは当然ですが、それでも神戸の図書館は親切ですよ。どんなことでも相談にこたえてくれる。

赤尾 そのことは岡部伊都子も大養道子もはめていましたわ。神戸は自由的市民精神を持っていて、お上や権力者に頭を下げない、という点で好きなのです。しかし役人は黙っていても何もしない。少しは刺激を与えなければいけないと思っています（笑）

神戸市の文化行政はどうでしょう。

陳 市民会館をつくる話がありますね。ただ敷地がないというので

難航しているらしいですが。それを市街地の小学校がだんだん人数が減ってきているので、それを統合してあいた学校の敷地を市民会館にしたらという案があるのですが、これにはPTAと同窓会が反対するらしい（笑）

津高 美術館設置で陳情に行った時のことですが、そのあいた小学校ができれば、市民会館をつくるように誰かを動かしなさい、すぐできますよ。というんだが、さすが市の方も自分でつくるとはいわなかったな（笑）

赤尾 西宮や尼崎では公民館がたくさんあって、いろいろと利用しやすいですね。「渦」の大会をする時でも尼崎の文化会館に話を持って行く。神戸ではできない。金のない文化活動をしようと思うと神戸はかなりしんどいです。ですからどうしても阪神間を利用する。もちろん公民館や文化施設の多いことは裏からみれば市長の票あつめかもしれない。しかし政治は上から下にも見るだろうが、文化はそうはいかないのです。ね。一市民として文化を感じるとすると西宮、尼崎の方がええといえる。

津高 それは美術館設置の運動をしている時にも感じていたのですが、施設を利用するのは何も絵かきという専門家だけではない。だ

から大きなものを建てなくても、相楽園の中にあつた馬小舎のようなところを開放したり、どこかのフロアをサロンとして提供するという具合に安直に手をうっていたきたいのですわ。西宮の場合も市民会館というモニユメント的なものを建てたが、あとの利用面ではいろいろな機能的に問題があるようです。

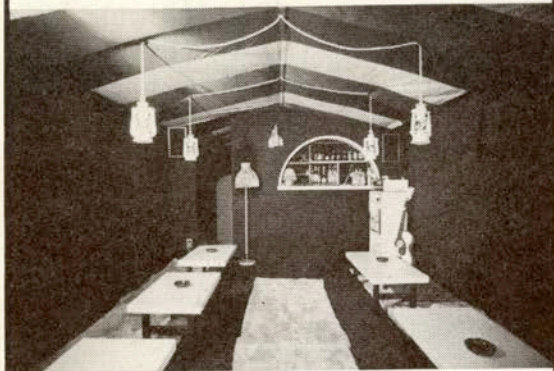
赤尾 神戸は洗練された街だから一つのデカイものをつくり、他方では安直な手輕るに利用できるものをつくる、という二面作戦でいけばいいのですよ。

津高 ところが当事者は、一つ大きいものができると、小さい方まで手を出しやらん（笑）

神戸でできることだと思つていますが、サンパウロのビエンナーレの関係で八カ月いたのですけれど一新聞社の社長が記者クラブと称するものを設けてバーを開業して外国からの人たちがいろいろと交流して飲んでいるわけですね。控えるの間があつて、そこに小品を展示することもできるですね。記者クラブと称しているけれど、それは文学をやる人とか絵をかく人たちの集まるところで、実際記者は少ないのです。これは神戸でもできますよ。ブラジルらしいところだなあと感心しました。

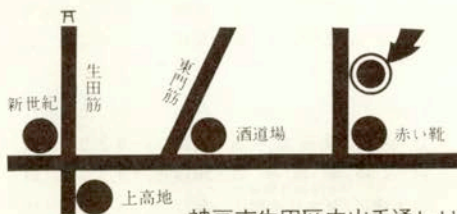
陳 竹中郁さんが、どこかへ行っ

MORE MORE



キャラバンのテントを感じる室内、神秘的なムード。魔法のジュウタンに座して汲みかわそう！

ビール小300円 ウイスキー400円
フイズ等400円 他軽食も有り
チャージ、サービス料いっさい無し



神戸市生田区中山手通1-117

TEL 33・4728

PIZZA SALAD & HOTDOG

あなたらしいパーティーを！

2F

小さなパーティーを
あなた自身で演出で
きるスペースです



RESTAURANT

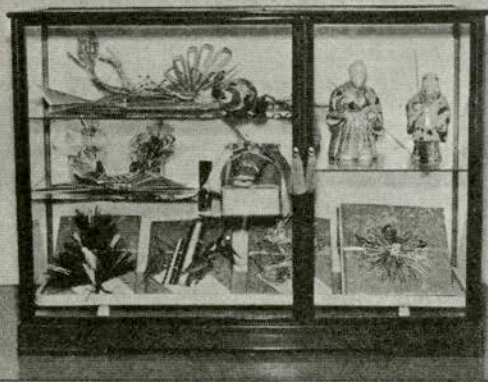
ASHIYA GARDEN

TEL (0797) 31-1025

新春は元旦から営業いたします

幸せな二人
えにしを結ぶ 結納儀式用品

寿



合資会社

遠藤福寿堂

東店＝神戸市生田区トア・ロード高架上 TEL(39)代1871

西店＝神戸市長田区市電菅原東入 TEL(55)代2251

メトロ神戸店＝神戸高速地下街 TEL(34)1035

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店/三宮センター街・電話 33-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店/銀座並木通・電話 573-5298 (代)

渋谷店/東急本店・電話 462-3409 (直)

日本橋店/東急日本橋店・電話 211-0511 (代)

(5 昭和装束街)

(4 昭和装束街)

たら皆に会えるか、または消息のわかるところが欲しいので、自分は酒は飲まないから喫茶店でもつくろかな、といっておられましたよ(笑)

津高 日本人はそうなるとすぐグループにかたよるが、かたよってもいいと思うんだ。レストランでもきかない二つのグループが隣りあわせになっても異域同舟でかまへんのですよ。それもまた面白いですわ。

小島 ただ神戸の場合は、規模からいっても中途半端な街ですね。なんとなくまとまりにくくて。

赤尾 そうですね。はっきりと縦と横の関係がわかるわけでもない津高 そこに地方のユニークさがでてきそうな気がしますね。

★神戸の批評家精神

赤尾 関西とか東京とかを基準でみれば、神戸は文化施設の面においてもわかるようにそれほど文化的な動きがおこなわれていないと思うのですよ。ところが神戸というイメージがあって、有名な作家でも神戸にいくと、神戸では文化人は大きな顔をして歩ける街やなあというんだな。文化人でも一つの仕事をちゃんとして礎をもっていないと普通なら認めませんよ。これは職業人については当然いえることですわ。神戸では、街のムードというか流行、オシャレにお

けるセンスの良さと文化とのさかい目をはっきりしないのです。文化人というのは創造しなければならぬ。ものを創らずに、流行なりオシャレなりのセンスの良さと文化人と思いこんでいる。またそう見ている人ははっきりと除外する必要があるすな。別の意味から神戸を弁護するためにいうと、神戸人に、センスの良さを売り物にする者と創造する者とをはっきり区別して知っていても案外あれこれと指摘したりしない開放性があるのですな。これは文化人と称する者がはっきりと知らないとかん。知らないでやってる連中の方が結局はアホなんやと思うね。その意味では市民の方を信用するのです。役人がきてもそうはなびかないというか、よほど立派な連中がきてもそれは驚かんのが神戸です。陳情して物をいただきたいとはあまりいわない。お上からみるとまったく具合の悪い市民なんですよ(笑)それは文化とまでいえずなくても、何らかの芽が育つ可能性がある。創造的活動に従事していない文化人は、この現実をもっと自覚すべきです。市民の方がかなりのレベルにまできている。

陳 神戸市民は批評家という感じがするね。おそらく開港以来、外国から入ってくるものを暗黙の内に取り入れるべきものと、そうで

ないものを選択している。自ずから批評家精神ができていましてね。

津高 そういう選択をおこすだけの何か仕掛けができていたのでしような。

赤尾 仕掛けね。それはええ言葉や(笑)

★京阪神のワキ役神戸は

人工的に頑張らんとアカン

小島 大阪だと商売をしている人間と、ケッタイな虚業にたずさわっている人間とはまったく別だという意識がありますね。京都へ行くと虚業の方が強いのですわ。

赤尾 ええ、虚業が案外のさばるのです(笑)

小島 小説も書いてないし詩も書いていなくても大学の先生となると、ハハアとかしこまる(笑)ところが神戸になると、虚業にたずさわっている人間を、こいつはほんもので、こいつはにせものやと見分けるところがある。批評眼があるのですね。

赤尾 開港以来、いろいろと見てきましたからな。雑種の街の強いところですよ。

小島 神戸人は外人も区別しますからね。

陳 ずいぶんとインチキ外人にだまされてきたからでしょう(笑)

津高 東京の銀座を歩いても神戸の人は驚かないね。東京下りをあ

りがたがらない。

赤尾 大阪いうとナメてかかって
いるしね(笑)

小島 ヒッピーなどでも神戸では
相手にしてくれない。新宿のよう
な田舎者の多いところでは人が集
まるだろうけれど、神戸じゃセイ
がない(笑)

津高 無視するというのが無言の
批判精神でしょうな。これは神戸
人の動物本能みたいなものですか
な。

小島 習性でしょうね(笑)

赤尾 山陽新幹線の問題でも、神
戸にひかりを停めるかどうかで議
論があるそうだが、まだ神戸市民
の間で切実な問題になっていませ
んわな。

陳 あとは明石に停まるんですわ
明石やったら国鉄で行ったら乗れ
るんです(笑)

赤尾 その精神や(笑)これが神
戸人の習性なんですわ(笑)

津高 そら、明石まで快速にでも
乗れば別にどういうこともないで
すな(笑)

陳 東京へ行くときは新大阪、西
へ行くときは明石まで行けばいい
ですよ(笑)

赤尾 神戸はそんなところなので
す。しかしうっかりしているとや
られるかもしれないね。

陳 明石も神戸の一部だと思えば
いい。

赤尾 これは経済界には影響が大

きいですよ。全国で超特急のとき
る駅となると、もし神戸で停まら
なかったら神戸は経済的な意味で
本当の田舎になってしまふ。そう
いう直接に関係するところからも
まだこの問題に対する声は弱いで
すね。

陳 今の段階では港のある都市に
はひかりは停まらないようです。

赤尾 東京にひついた横浜と京
阪神三都の神戸とはちがうと思っ
た。京都、大阪に停まって神
戸に停まらなければ、神戸はダウ
ンする恐れがある。

津高 逆説的にいえば神戸の人間
は文化人かもわからん。国鉄のい
う機能性からいうと、大阪を出て
速度の出たところで停めるより、
明石ぐらいで停める方が理にかな
っているのかもしれない(笑)

赤尾 これじゃ、とうていひかり
は停まらんわ(笑)

陳 明石の合併運動をするといひ
のですよ。明石を出ると播州平野
があつて視界が広がりますから。

赤尾 そうでしょうけれど、神戸
駅からひかりに乗って東京へ行っ
たら気持ちよろしいぜ(笑)

小島 それは銀河の感覚や(笑)
神戸を出る唯一の夜行列車があり
ましたな。

赤尾 大阪は歴史的に中心として
栄えてきたところで、ほつといひ

も水が流れよる。神戸はワキです
から人工的に頑張らないとあか
ん。自然とそこが中心になるとい
うところはどとも面白くない。水
の流れる道をつくらないとあかん
のですわ。

津高 その点では明石の方が播州
平野を控えて可能性があるのでは
ないですか。

赤尾 播州は多くの故郷ですが、
いまの調子では駄目ですわ(笑)
これは神戸の人間が考えるべきこ
とですが、播州は近代化せず至今
のままで残しておかないといけな
い。神戸に将来大きな人間が出る
としたら、播州の野に行つて深く
呼吸をして自然を見つめるところ
として残しておくべきですよ。

★野暮とモダンの魅力

赤尾 次に七十年代における文化
界で期待される傾向ですが、文学
ではいかがでしょうか。

陳 六十年代では田辺聖子ですが
神戸を書いたという点では、東京
にいる野坂昭如の一連の空襲小説
が一番だと思います。抜群の記憶
力ですね。空襲のころの神戸を書
いたのは今まであまりないです
よ。

小島 小説が神戸ではもうちょつ
と盛んにならないとあかんと思っ
な。

赤尾 文学を使うものとして小説
が文化の先端にはなやかに出なけ

れば神戸のイメージアップにつながりにくいですね。小説家は保護すると駄目になるから、せめて関心だけはつねに持つべきでしょう。

陳 そういう雰囲気の中からわれわれの知らないところで新人がパッとあらわれる気がしますね。

小島 神戸の場合は地道にやってきた人よりも案外パッと世に出る人が多いですね。その可能性は大きいにあります。兵庫的なある意味では非常に雑駁な伝統と、神戸のいわゆるモダニズムが混ざりあって、野暮でありスマートであるようなものが突発的に出てくる可能性がありますね。それは「風群」にいる下大路由佳などにも、そのモダニズムとやばったさがある。ああいう傾向が時々でてきます。

ただ神戸は割に飽きっぽいから長続きするかとなるとわからない。**津高** 横尾忠則のセンスが西脇の野暮と神戸のセンスで洗礼を受けたみたいなんですね(笑) 猥雑さとモダニズムを醸成して東京へ行った。

小島 「暮しの手帖」の花森安治についても同じことがいえますね。大阪の場合は、同じ猥雑でも無理なポーズの猥雑さがある。それが花森安治には野暮とスマートさが感じられる。それが神戸人の妙味なのです。東京だけのセンスで

もないし大阪のセンスでもない。**赤尾** それはよくわかるのです。よく自身が猥雑であってモダニストであるといわれているのですわ

小島 そのとおりですね(笑) 大阪では、本人がそれほど猥雑でもないのに、オレは河内やで、とワザと猥雑にしよう。またそういうわんとなりがすまんです。一種の露悪趣味がある。

★万博の地鳴り末だ神戸に響かず
赤尾 六十年代における神戸の文化も、新人輩出という点では、そう著しいものでもなかったといえる。それは、今いわれたように、神戸の土壌はジワジワと新人を醸成していかない。半熟でも東京に出る。そして東京で、神戸生まれあるいは神戸育ちの氣質を尾軀骨にぶらさげている。これが六十年代の神戸文化の特徴だと思うんですよ。ところが七十年代になるとちょっとちがってくるね。

津高 七十年代というと万国博があるのですが、金儲けと民族の祭典的なイメージが神戸や大阪と直接つながらないのではない。どうも一種の仕掛屋みたいなものがない、一般市民にせよ美術界にせよ表面を通りすぎて行きそうな感じがする。直接万国博にたずさわる人は、各パビリオンが全国からピックアップしたかたちで、本来ならそうでなく、もっと下からの

盛り上がりで祭典がなされるべきだが、どうも地鳴りが感じられない。跡地の問題でも現在背負っている負債で頭がいっぱいで、どうしようもないのです。政府にいかにも高く買上げてもらったが現在考えていることなんですね。大阪が万国博を契機にしてグッと発展するビジョンがないのです。祭りにダンジリが音をたててとあって、跡に紙くずばかりではいけないのですよ。

小島 いまや情報社会で、どこに何があるかわかっていることが多い。第一回のロンドンでおこなわれた万国博とはちがうのです。津高 これは神戸だけの問題でなく、京阪神三都の京都にもいえることだと思ふのです。なかでも神戸人は、とくに笛吹けど踊らないのです(笑)

赤尾 どうも神戸人は、さきほどの新幹線と同じく万国博にも冷淡ですな(笑)

★七〇年代感覚主義

実感主義の時代に何がのこるか

赤尾 皆さんが言われる通り、七十年代のいろいろな問題は、案外神戸を素通りして行きそうな感じがする。神戸は、ダンジリの囃子を聞いて尻軽になるのではなく、持って生まれた尻軽さがある(笑) しかし、文化の傾向として七十年代は面白いものがでてくる可能性

があるようですね。

陳 和田悟郎によると人類は、あと十年も生きないということだがそうなるのと七十年代は闇だね。

赤尾 あれは命がないという意味ではないのだけれど、ああいう理学者は悲観的になるのだな。

小島 小説が盛んになるとさきほどいいましたが、実際は今後おとろえて行くと思いますね。

赤尾 活字がですか。

小島 活字も含めて文学全体の問題でしょうが。もっと感覚的な詩などの分野に可能性がありそうです。

陳 作品の傾向がシアリアスなもの、お茶の間に入ってこれないエロものにと大別されてきますでしょうね。

小島 そして深刻なものは詩以外では表わさなくなる。一つ一つの手順を追って論理を積み重ねることよりも、パツと活字が視覚的に入ってくるようなものが出てくる。

赤尾 非常に短かい電波みたいな言葉ですか。そうすると逆説的に長い小説が求められるようになるし、また刺激となって良いものが生み出される楽しみがある。

陳 そうですね。詩情が発露する方向が問題でしょう。余暇が多くなると、その時間を創作に振りむけて行った時の楽観的なみかたも

ある。

赤尾 文学のエッセンスが詩だとしたら、その詩を人間が見返らなくなれば人類は終りですか。

小島 言語の滅亡ですね。

赤尾 文学に対する楽観説、悲観説のどちらに転んでも、かろうじて詩は残るのではないかと思っていますのです。これも楽観論でしょうかね（笑）

小島 残念ながら絵画、音楽は残る（笑）

津高 非常に親しいアメリカの詩人で京都に住みついて九年にもなるのですが、アメリカに帰ると、むこうの詩人はストリップばかりでとてもおれん、といってすぐ京都に帰ってくるのですね。

ニューヨークでは詩人が活字でなく、裸になって観賞に訴えるのです。

非常にメカニク的な環境の中ではあんならざるを得ないのでしょうが、芭蕉を研究している者にとってはとても住みづらい（笑）

日本も東京をはじめ、だんだんそういう傾向がでてくる。本当は、そのニューヨークの汚染の中でたちどまってそれに耐え、そして超えることができないものかとも思いますね。でないと、いずれわれわれも避難地として神戸を選ぶようになるだろうし、人によっては神戸からも逃げて出るかもしれない

い。

小島 学生たちと話をしている感じるのだが、もう概念などはまったく信用しない、だから言葉も信用しない。ただ感覚あるのみです。音楽にしても絵にしても、これは感覚だから信用できるということです。

ところが文学は信用できない、感覚主義というか実感主義なのですね。戦後の実感主義が整理されていないかたちで出てきたようです。

最後にこちらが、地球が動いていることは実感できるかと問うと、むこうは返事ができない。しかしそこにいるまでがすべて実感で処理するのですね。

陳 はじめに言葉ありき、だからこの世に言葉がなくなるともう終りですわ。人類は生きるかもしれないけど、それは別な奴や（笑）

赤尾 そら、アニマルが生きるわけやね（笑）。

△文責・編集部▽

☆神戸っ子愛読者映画優待券

このコーナーをご持参の方は

神戸新聞会館大劇場

上映の観覧料が優待割引されます

一般500→400円

学生400→300円

小人250→200円になります



呉那保磯

みよーや

神戸店 大丸 前

電話神戸 3332 三四八番(代)

大阪店 阪神百貨店三階

電話大阪 (361) 九五八四番

姫路店 やまとやしき百貨店四階
電話姫路 23 一二二二番

あなたの美しいヘヤースタイルと
花嫁をつくる 美容室 エリザベス



エリザベス

畑尾 美久子

本店美容室 生田神社前新河南ビル2階 <33>8894
婚礼衣裳部 生田神社前(元本店美容室) <33>3258
三宮店 三宮神社山側三上ビル2階 <33>4917
芦屋支店 芦屋市阪神芦屋駅前 <2>4067
西宮店 西宮市阪急西宮マンション北館1階 <67>1294

美容担当(東京初代遠藤波津子直流)専属結婚式場
生田神社・オリエンタルホテル・阪急六甲山ホテル・住吉
学園・蘇州園他

元町
タウンジャーナル
★★★★★
MONTHLY
MOTOMACHI
Road

■元町に天使が降りて来たノ

元町にも一九六九年のフィナーレ、クリスマスが近づきました。元町一、二丁目のプロムナードを飾る楽しい装飾は、元町に天使が降りてきたノ。可愛いエンゼル達の合唱が、鐘の音に



美しいハーモニイを奏でます。

紅く燃えるキャンドルと花々の行燈が、道行く人々に「メリー・クリスマス」を呼びかけて、ショッピングの楽しさを充分に味わわせてくれるのです。

エンゼル達は、鐘の音とともに飛んだり、降りたり、子供達は鐘から長く降ろされた綱をひっぱって、カランカランと大騒ぎ。

お買物客も参加できる楽しい、エンゼル達の、スノー・クリスマスです。飾りつけは十一月下旬から初まり、クリスマスモードはいっぱい。

■元町一丁目山側飯店舗

12月新装オープン!!

市街地改造の一環として、長い間飯店舗住まいをしていた元町商店街山側店舗が12月新装オープンする。

★元町1・2
ミニトビックス



★クリスマスが近づいたので、ある日おもちや屋さんのぞいてみました。△カメヤ・バンブー店△にとっても可愛いミシンがありました。お人形の洋服ぐらいなら簡単に縫えてしまいます。

一、六一〇円
一、四一〇円
坊やにはメカニカルトイが喜ばれそうです。

★日本楽器・神戸店△では12月31日までヤマハステレオ・ナチュラルサウンドフェアを開催中。

期間中ヤマハステレオお買上げの方に、特製プラス像(ロダン原作「マール仕上」)を無料でプレゼントしています。

★ベビー、子供服専門店△ファミリア△にオリジナルオーバーコートが出揃いました。デザインはいずれも活動的なもので、可愛いものばかりです。その他

リズム揃ふらし
おむつ用安全ピン

一五〇円
一五〇円
一三〇円

COOLAガム型おしゃぶり

一八〇円

★貴金属、装飾の△七宝頭飾店△にいろんなコンパクトが並んでいます。

象牙のコンパクト 六、〇〇〇円

仮店舗中は、狭くなった道幅のためにゆっくりと落ち着いてウインドーショッピングを楽しむことができなかったが、これからまた元ブラが楽しめるかと思うとうれしいかぎり。

12月にオープンするのは、呉服の「丸太や」「ラモード洋装店」「ハンドバッグの「琥珀」「日本旅行神戸営業所」「岡田羽二重店」「マサニ電気」「紳士洋品の「新光」「太田べつ甲店」「サンサカエ」以上九店舗。いずれも一階が店舗、二階以上は住宅となっている。「サンサカエ」は同商店街二丁目浜側にも店があるが、今度12月にオープンするのは「ニットショップ・サンサカエ」。より幅広いお客を対象にし

ミニ・マンガ



岡田 淳

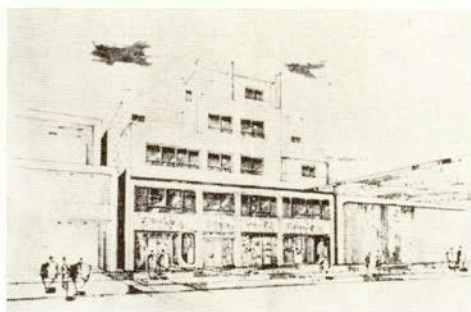


図 想 予 成 完

ようと頑張っている。

年末をひかえての12月新装オープン各店とも華やかな商売合戦をくり広げることだろう。

忘年会・新年会は決まりましたか

12月はアツと過ぎるところから師走とも呼ばれているが、子供にとって12月はクリスマスの意味し、大人は忘年会、新年会がすぐ頭に浮かぶ。その忘年会、新年会にいつも苦労されるのは昔のこと。「日本旅行神戸営業所」に各種コースが最低5,500円(一泊)よりありますので、ご予算に合わせたお好きなコースをお選びください。詳しくは神戸093147まで。

★元町商店街への車でのお買物には花隈駐車場をご利用下さい。

シルバー

四、〇〇〇円
五、〇〇〇円

七宝焼コンバクト

三、〇〇〇円より

★紳士服飾の店「ハウネ」に、流行のタータンチェック・マフラーがあります。スコットランド製です。どれも素敵なチェックばかりです。あなたの好きな色柄を選んで下さい。

一、五〇〇円

★書籍、事務機械の「丸善」から面倒くさがりの人にピッタリの商品を見つけて出してきました。

ペン立て

二〇〇円

(あなたの好みで組み立ててね)タイプ、ボールペン、鉛筆、全てに万能の消しゴム(電池式)

カレンダー
五八〇円
二八〇円

★ガングラブチェックのバッグが一時大流行しましたが、次第に町から消えてゆくようです。

△大上靴店△でカッコいいバッグを見つけてきました。アメリカ・マシソン・スクエアガーデンです。今度はこのバッグが流行しそうな気配です。一杯ものが入るので、荷物持ちのあなたにピッタリ。

一、三〇〇円

★レディースショップ「ハカワムラヤ」に、クリスマスプレゼントにピッタリの商品があります。

小花模様のバックハンガー

一、〇〇〇円、一、五〇〇円

暖かいホームスカー

(L寸もあり)三、三〇〇円
相手の喜ぶ顔が目に見えようです。

■モトマチ1・2

すてきなお店



ウエダ

元町2丁目

☎0686

★小じんまりとした店先だが、品格あるセンスを感じさせる毛皮の専門店。

一年四季を通じて、コート、ショール、ボア、カラー、帽子マフなどのあらゆる毛皮おしやれ製品のみをおいている。

世界各国の原皮を輸入し製造販売するメーカーの直営ショールームであるだけに、別誂え、修理等毛皮のことなら、どんなことでも気軽に相談ののって下さいとのこと。

カメヤ・パンブー店

元町1丁目

☎0768

★色とりどりのおもちゃとクリームホワイトの壁とが調和した、甘く明るいお店

元町商店街の入口に近いせいか、お客の半数は外国人客という。その買物はといえ、やはり日本人形が圧倒的。カメヤのチェーン店として、輸入玩具をはじめ各種玩具が安く豊富に揃っています。外人買物客が気軽に手荷物を預けていくというこのパンブー店、日頃の接客態度のよさがそうさせるのだろう。

元町商店街の入口に近いせいか、お客の半数は外国人客という。その買物はといえ、やはり日本人形が圧倒的。カメヤのチェーン店として、輸入玩具をはじめ各種玩具が安く豊富に揃っています。外人買物客が気軽に手荷物を預けていくというこのパンブー店、日頃の接客態度のよさがそうさせるのだろう。

七宝頭飾店

元町2丁目

☎1558

★「七宝は七宝焼の意にあらず、7人の子の意なり」名づけて「七宝頭飾店」。

本店は大阪心齋橋にあり、貴金属、宝石、喫煙具、装身具、銀器などバラエティに富んだ営業品目。流行に左右されない落ち着いたお店は、客層も中堅層が圧倒的。コンパクトに人気があります。元町でコンパクトを置いている唯一の店として「気軽に入っていただけることがモットーです」

と店長の岡本さんは語る。

★元町うまい店

「矢倉ずし」

元町通二丁目六五

(電☎〇〇九八)

生粋の大阪船の老舗で、創業以来約一〇〇年、四代にわたって、大阪船についての数多い秘伝を相伝している。

元町本通りに面した堂々たる風格の店構えは、その歴史を感じさせるが、今のご主人が老舗の近代化に努力を重ねてきたせいか、意外に気軽に入れるお店。

ゆったりとしたスペースの中で、落ち着いて食事ができる。

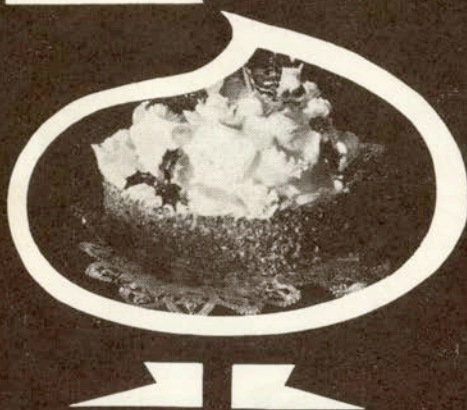
和紙張りのメニューには、墨筆で、手頃なものからさまざまな種類の鰯料理がしたためられている。自慢料理は松前鮎、特にパッテラ(三五〇円)。これは二代目の創業によるもの。その他冬のおし鮎は、三代目の歴史に残る創作だそう。

身をそのまま使った古式雀ずし、穴子棒ずし、さばずしは九〇円とちょっと値がはるが、お手頃な値段でおすすめしたいのは、茶きん寿司(三〇〇円)。うす焼卵に包まれたかわいおすしが二包み。ウィンドーのよりみずと大きくって、ほんとうに満足してしまう。それにお吸物か赤だし。(二〇〇円)を併発してはいかが。

ショッピングは
楽しいモトマチへ

96頁 1.2丁目は
元町、2丁目は
企画ページ

風月堂の
クリスマスケーキで
楽しいイブを！



神戸にそだって 70年



元町3丁目 TEL 332412-5

さんちかスイーツタウン TEL 333455

本格派のあなたに



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106



おいしさが
口いっぱい
ひろがる……
本場の味



ばた
なち

- 三宮センター街柳筋店
TEL・32-3446・33-0572
- 新開地店
TEL. 56-1191
- 平野店(平野市場内)
TEL. 36-0821

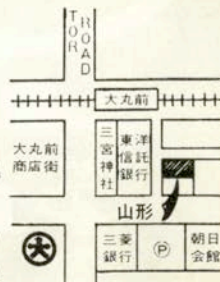
●三宮センター街<サンプラザ地下街>に
来年4月開店予定!

家庭的な雰囲気を
と心がけております。
ご家族づれでどうぞ



焼鳥. 盛り
山 形

三宮神社東路入る
TEL 33-5979 32-2417
定休日 第1 第2 第3日曜



●●●●● うまいもんシーズンはスカイサントリーで ●●●●●

★ 忘年会、新年会のご予約はお早目に!!
予約受付中



(一品料理、日本酒も準備いたしております)

飲みほうだい (サントリー純生ビール クラウン・コーラ) + 食べほうだい! <北欧ヴァイキング料理> 1,400円<飲食税140円別>

101



なごやかな
ムード
すばらしい
眺望!

三宮交通センタービル9階 TEL 33705~6

スカイサントリー

★ ムツシユード・コウベ ★

★ ⑩ 森本泰好さん 竹田洋太郎 ★

神戸のさんちかタウンは、現在東京、大阪など大都市の都心にできている大規模な地下商店街のモデルということになっている。そして神戸の住民もいくらかそれを誇りにしているふしがある。私もそうである。

大阪の地下街ではいま問題がでているが、それはどこもいやなニオイが立ちこめていることだという。そこで、換気装置の大拡充をやらねばならないわけだが、大阪の地下街がくさいのは、人間が多いただけでなく、やたらにクシカツ屋みたいな食堂が一般商店の間に点在しているためだと思う。

それにくらべると、まずさんちかタウンはニオイがよい。食堂の方もまとめられていて、ニオイが商店の方へこない仕掛けになっている。食堂というものが相当強烈なニオイを発することは、そごうの角の道路ぞいにある換気孔からきついニオイが出ているのでもわかる。

食堂だけでない。さんちかにはいって、だれもが気づくのは、レディースタウンとか、メンズタウンとか、ファンシータウンとか、整然と業種別に編成されていることだろう。こういうアイデアは、さんちかタウンの元締めである神戸地下街株式会社の業務部長、森本泰好さんによるものなのだ。

この計画を耳にしたとき「やっぱり森本さんだ」と友人の間で語り合ったことがある。というのは、森本さんはかつて今はなき神港新聞の記者として私の同僚であったのだが、整理部畑出身の編集局長をつとめている。つまり「整理部らしい」ということだ。

新聞記者というと、テレビで出てきた事件記者のイメージがまず浮かぶが、外へ出てエラソウにしている、記事を書く記者も、中でいわゆる紙面製作に当たっている

整理部記者にかかると、書いた記事がどんな目にあうかわからない。なん段の見出しをどうつけて、紙面のどこに置こうか、と考えて決めるのが整理部記者なのである。活字の大きさを単位とするモノサシなどをにぎり、こわい顔してデスクにすわっている整理部員は外勤記者にとつて、なんとなくおっかない存在だ。

だから、さんちかタウンの整然たるレイアウトを見たとき、厳格で鳴る森本さんの新聞整理を思い出したのである。

もう一つある。森本さんも私も、同じ大阪外語の卒業（お前は同窓ばかりここへ持ってくるといわないで下さい。外語出身が神戸に多いからいけないのです）専攻はドイツ語である。ナチス花やかなりし頃にドイツ語を志望したんだから、やはり整然たる統一への指向性があるのだろう、というやや問題があるが、どういふものか専攻の科によって、みないくらか学生の性格も異っていた。ドイツ語科の他の友人も、私とちがって大むねマジメで几帳面だった。その几帳面さが、あのさんちかに出たのではないかと思う。

一方、私は雑然派というか、闇市派というか。三宮のあの一角にあったジャンジャン市場を愛し、それがこわされるとき一掬の涙を注いだほどだから、あまりにもキツとしたさんちかに、いく分心配したものである。

だがこれは、杞憂だったようだ。店のレイアウトが整然としていても、ともかくあらゆる年齢層、階層の人が、雑然とこの地下道に流れ込んできて、一種の熱気をつくりはじめたからだ。そのうえフォークソングのグループが一時たむろするくらいハブニングまであった。

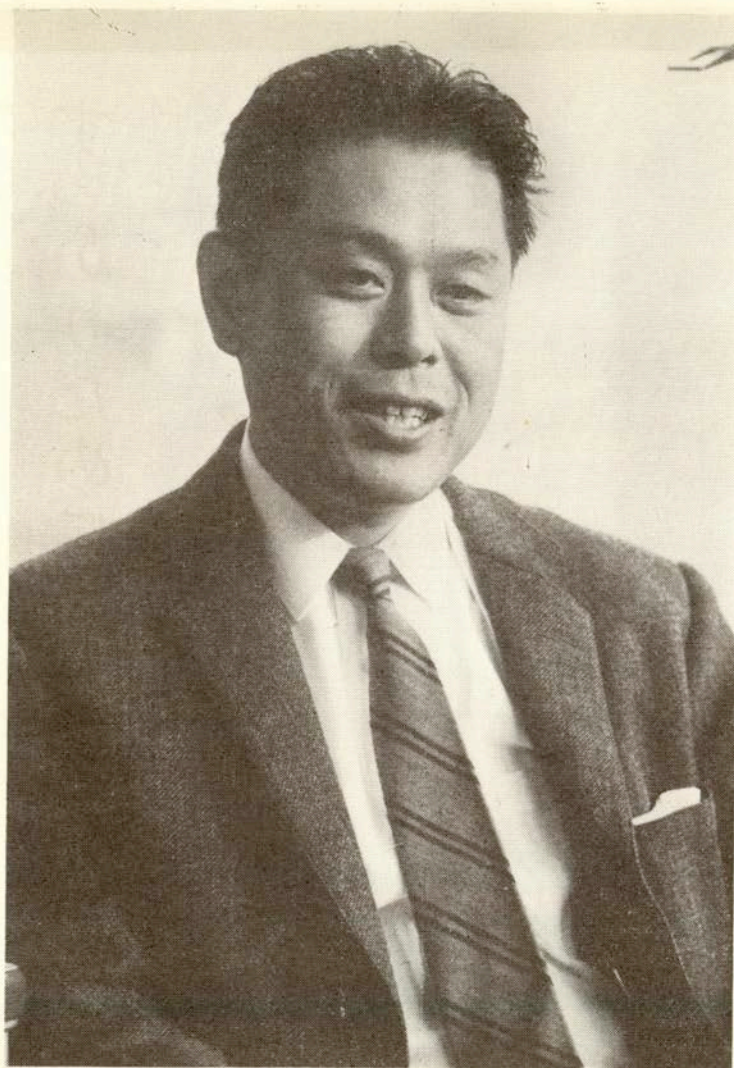
また、さんちかが拡張されたとき、森本さんは、私た

ちの考えたことに無言で応じたようだ。拡張部分のファミリータウン、お好みコーナー、さんちかひろばには、いままでの「ちょっとおすまし」ムードとはちがって、雑然とした、親しみのもてるムードが生まれたからだ。さんちかひろばをときどきのぞくが、この催し物の中で、予想以上に受けたのは「占い」のオンパレードだったという。スマートなさんちかで、ちょっと考えられないことだが、こんなことを思いつくのも森本さんだ。

森本さんはさきほど神戸の専門店主の人たちとともにアメリカの新しい小売り形態であるショッピング・センタ―を中心に視察旅行に出かけた。その見聞を話してもらったが、いまや、デパート、スーパー、専門店のすべ

てを含む大ショッピング・センタ―の開発担当者は、デパートや、スーパー経営者でなく、専門の職種として定着しつつあるということだった。

新聞記者というものは想像するほどツブシのきかないものだが、森本さんは中年の入り口で、全く新しいショッピング・センタ―のプランナーに転身し、そして見事なさんちかタウンを作った。近く完成する神戸港第四突堤にポート・ターミナルという日本でもはじめての港のショッピング・センタ―ができるが、このプランもいま森本さんから、神戸地下街の人が練っている最中だ。さてどんなものができるか、大いに期待しているところである。



森 本 泰 好 さん